

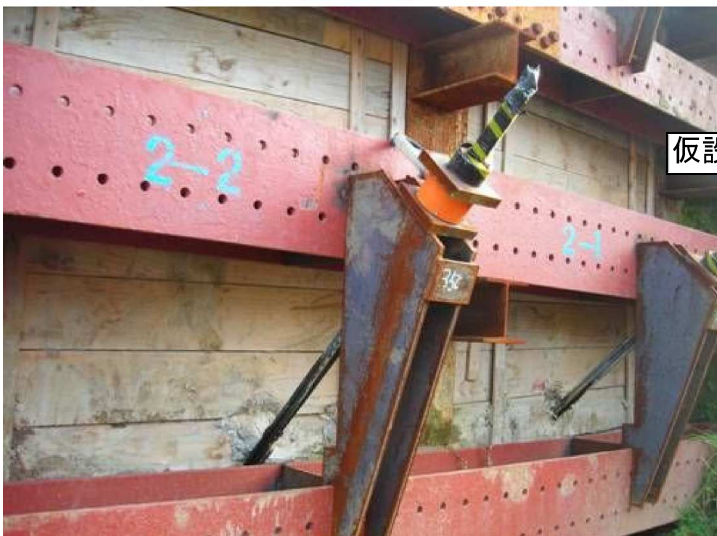
荷重計設置時の注意点

- 荷重計の上下を十分な厚さのアンカープレートで挟んでください。ラムチェア直径は大きいため、プレートの厚みがないと荷重計上部のプレートが変形することがあります。
- アンカー軸と荷重計の軸がずれると荷重が正確に表示されません。できるだけ軸線を合わせてください。
- 荷重計定着時は載荷→除荷→載荷→除荷を何回か繰り返して、測定器の表示が目的の定着荷重に合うように調整してください。
- ケーブル先端のバラ端子は絶対に濡らさないでください。計測後はゴムキャップをして、脱落しないようにビニルテープで固定してください。端子が濡れた場合計測不能になる場合もあります。
- 荷重計のケーブル長は標準で5mです。
- 測定器TC-31Mなどにて計測する場合はひずみのダイレクト値で測定することを推奨します。
 $\text{荷重(kN)} = (\text{ひずみ測定値 } \mu - \text{ゼロバランス } \mu) \times \text{校正係数 MN} / \mu$
 例えば 測定値 = -1500 μ ゼロバランス = -10 μ 校正係数 = 0.0004 MN / μ の場合
 $\text{荷重(kN)} = (-1500 - (-10)) \times 0.4 \text{ kN} / \mu = -1490 \mu \times 0.4 \text{ kN} / \mu = -596 \text{ kN}$ となります。
 極性の-は荷重計に圧縮がかかっていることを示します。
- ひずみ測定値を入力すれば荷重が表示されるシートをEXCELなどで作表しておけば便利です。荷重計ごとに校正係数とゼロバランスが違う場合が多いです。下記に記録簿の例を示します。

荷重計測定記録簿

	型式	製造番号	ゼロバランス (μ)	校正係数 (kN/ μ)
NO.(1)	KCE-500KNA	AHU150483	-20	0.202
NO.(2)	KCE-1MNA	AHV150446	-10	0.397
NO.(3)	KCE-1MNA	AHV150447	-10	0.397
NO.(4)	KCE-1MNA	AHV150448	-10	0.397
NO.(5)	KCE-1MNA	AHV150449	-20	0.397

測定日	NO.(1)		NO.(2)		NO.(3)		NO.(4)		NO.(5)	
	測定値(μ)	荷重(kN)	測定値(μ)	荷重(kN)	測定値(μ)	荷重(kN)	測定値(μ)	荷重(kN)	測定値(μ)	荷重(kN)
/	-1650	-329								
/										
/										
/										
/										
/										



仮設アンカー荷重計設置例



長期アンカー荷重計設置例

